採用２年目立会事務官による座談会

イニシャル：１年目の配属先（性別・試験区分）
Ｈ：総務部（証拠品）　（男・大卒）
Ａ：公判部（事件管理）（女・高卒）
Ｍ：企画調査課　　（女・大卒）

Ｑ１．検察庁を志望したきっかけは？

Ｈ：バイクに乗るのが趣味で，危ない運転を見ることが多く，就活中にあおり運転が報道等でよく取り上げられるようになりました。元々治安維持の仕事に興味があったこともあり，そのような事件に関わることができる仕事がいいなと思い，志望しました。

Ａ:私の母が，他の地方検察庁で，検察事務官をしており，母の背中がかっこいいと憧れて検察庁を目指しました。

Ｍ：大学で学んだ法律の授業が楽しく，法律を使った仕事をしたいと思っていました。また，学生時代によく裁判を見に行っており，ある高等裁判所での裁判を見て，自分も裁判に検察官側の立場から関わりたいと思い，志望しました。

Ｑ２.仕事のやりがいについて教えてください

Ｈ：検察庁だけではないですが，ここの仕事は入口から出口まで全てがつながっているため，自分が前に働いていた部署での知識を使って仕事をやり遂げたときには，自分が成長している感じがしてうれしいです。また，自分が関わった事件がテレビや新聞などで取り上げられていると感慨深く感じます。

Ａ：やりがいとは少し違うかもしれませんが，普通の人は見ることができない資料を見たり，情報を得たり，逮捕現場や捜索差押え（いわゆるガサ）に連れて行ってもらえるなど，普通の人にはできない経験をしているとき，私は検察庁で働いているんだなって思います。

M：事件の処理を適切かつ迅速にすることができたときに，やりがいを感じます。一つの事件を解決するためには，必要な書類を取り寄せたり，関係者の話を聞いたりとたくさんの過程を踏むため，仕事の量は膨大にあります。ですが，事件の解決は社会の治安の維持につながっていると思うと頑張ることができます。

Q3. 広島地検で働いてイメージは変わりましたか？

H：社会正義の実現を目指している官庁なので，入庁前のイメージは堅い人が多いイメージでした。説明会の時には普通に見えたのですが，今だけ普通に見えるようにアピールしているのかなと正直疑っていました（笑）。しかし，実際，入庁して話してみると，すごく堅いわけでもなく，だらっとしているわけでもない，みんな普通の人でした。

A：親から職場内の雰囲気等について詳しく聞いておらず，想像では堅そうというイメージがありました。ですが，入ってみて，思ってたより，いい意味で緩かったです。締めるときは締める，緩めるときは緩めるというオンとオフの区別がしっかりしている人が多いですね。

M：捜査機関と言うこともあって，毎日残業しているのかなって思っていましたが，休みもしっかり取れる職場でした。もちろん忙しいときは忙しいですが，夏休みは最低でも1週間は取りますし，うまく組めば，2週間取れます。また，社会人になるまでは，毎日仕事に行くのが苦痛だろうなって思っていましたが，そのようなことはありませんでした。

Q4.職場の雰囲気は？

H：何でも質問しやすい職場ですね。どんな疑問でも丁寧に答えてくれます。また，入庁した年に受けた研修は，一か月程度ある初等科研修から，タイピング研修，簿記研修など全部合わせて6種類ぐらいあるほど，研修制度もしっかりしており，若手を育てていこうという雰囲気を感じます。

A：上司の人は丁寧に仕事を教えてくださいますし，自分より上の人が残って働いているからといって残らなければならないという雰囲気もありません。むしろ「早く帰れるときには無理して残らず早く帰りなさい」と言われています。

M：入ってすぐに配属されたのは企画調査課というところで，一番年の近い人で30代半ばでした。ですが，10歳ぐらい離れているからといって質問しにくいわけでもなく，電話の取り方なども含めた社会人として基礎の基礎から教えてもらい，すごくサポートが厚く，心強く感じました。また，今の刑事部では，同じ階に同期が5人おり，同期同士の仲も良いため，分からないことがあれば，お互いに持っている知識を補いながら，立会事務官として頑張っています。

Q5.社会人になって変わったことは？

H：一番変わったのは時間の使い方ですね。どうしても，大学生だったときと比べると時間がないです。社会人になりたての頃は，土日のどちらもベットの上で過ごし，気がついたら終わっているという自分の人生の中で一番最悪の土日を過ごしていましたが，これじゃまずいなと思い，休みが2日あったら，1日は友達と遊ぶなり，買い物に行くなりして，しっかり休息もとりつつ，充実した土日を過ごせるように努めています。

A：社会人になってから一人暮らしを始めました。社会人生活と同時にスタートしたこともあって家事に慣れるのには時間がかかりましたが，徐々に慣れてきて充実した毎日を送っています。また，分からないこと，知らないことに対しての抵抗がなくなりました。

M：社会人になり，お金に余裕もできて，仕事帰りに，市内で化粧品を見たり，家族にお土産を買って帰ったりするようになったときに，あ，社会人になったなって実感します。また，通勤時間に自分の好きな読書をするなど，土日や通勤時間などの仕事以外の自由な時間をいかに充実させるかを社会人になって考えるようになりました。

Q6.受験生へのメッセージをお願いします。

H：検察庁は将来の選択肢がいろいろあることが魅力の一つだと思います。国家総合職，いわゆるキャリア組はいないため，事務局長にもなれます。また，立会事務官の時に，検察官に憧れて，副検事になり，最終的には検事になる人もいます。他にも法務省や，最高検察庁，東京地検特捜部で活躍する広島地検出身の人もいます。是非検察庁を選択肢の一つにしてほしいです。

A：今の時期は，他の人が気になる時期だと思います。周りに流されることなく，強い意志を持って最後まで勉強や面接を頑張ってほしいです。

M：私は，これから40年働く場所を妥協で決めるんじゃなくて，心から行きたいと思うところに行けるように，いろいろな官庁の説明会に行き，HPやパンフレットを見ました。知らなきゃ選択肢は増えません。ですから，アンテナを伸ばしていろいろ調べて，考えて自分の選択肢を増やして，後悔しない決断をしてほしいです。応援しています。